

平成 29 年 7 月 9 日 (日) 施行

第 187 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 消耗工具器具備品費のため、間接材料費
2. 直接工賃金のため、直接労務費
3. 給料のため、間接労務費
4. 測定経費のため、間接経費
5. 素材消費のため、直接材料費

第 2 問

1. 材料購入を掛けで行った。
2. 材料消費額を仕掛品勘定に振り替える。
3. 賃金を仕掛品勘定に振り替える。
4. 減価償却費を製造間接費として直接記帳する。
5. 売り上げと同時に、製品原価を売上原価に振り替える。
6. 売上高・売上原価ともに月次損益勘定に振り替える。

第 3 問

月末仕掛品原価と完成品総合原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は平均法。したがって計算表は下記ようになる。

平均法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数 量	直接材料費	換算量	加工費	合 計
月初仕掛品	300kg	50,000	150kg	60,000	110,000
当月投入	2,000kg	341,000	2,000kg	800,000	1,141,000
合 計	2,300kg	391,000	2,150kg	860,000	1,251,000
月末仕掛品	250kg	①42,500	100kg	②40,000	82,500
完成品	2,050kg	348,500	2,050kg	820,000	1,168,500

$$\textcircled{1} \quad 391,000 \times 250\text{kg} \div 2,300\text{kg} = 42,500$$

$$\textcircled{2} \quad 860,000 \times 100\text{kg} \div 2,150\text{kg} = 40,000$$

第 4 問

- ① 材料 620,000 消費し、仕掛品に振り替える。
- ② 賃金 280,000 消費し、製造間接費に振り替える。
- ③ 製造間接費 810,000 を仕掛品に配賦。
- ④ 仕掛品 2,760,000 が完成し、製品に振り替える。

第5問

(1) 原価計算表の作成

#101

直接材料費＝	6,000	材料元帳払出欄より 6/2 に出庫している。
直接労務費＝	30,000	6月の直接労務費実際発生額 $210,000 \times 50 \text{時間} \div 350 \text{時間}$
製造間接費＝	13,000	製造間接費 91,000（間接材料費 18,000＋間接労務費 26,000＋間接経費 47,000）を配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $91,000 \times 50 \text{時間} \div 350 \text{時間}$

#102

直接材料費＝	20,000	材料元帳払出欄より 6/5 に出庫している。
直接労務費＝	120,000	6月の直接労務費実際発生額 $210,000 \times 200 \text{時間} \div 350 \text{時間}$
製造間接費＝	52,000	製造間接費 91,000（間接材料費 18,000＋間接労務費 26,000＋間接経費 47,000）を配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $91,000 \times 200 \text{時間} \div 350 \text{時間}$

#103

直接材料費＝	52,500	材料元帳払出欄より 6/23 に出庫している。
直接労務費＝	60,000	6月の直接労務費実際発生額 $210,000 \times 100 \text{時間} \div 350 \text{時間}$
製造間接費＝	26,000	製造間接費 91,000（間接材料費 18,000＋間接労務費 26,000＋間接経費 47,000）を配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $91,000 \times 100 \text{時間} \div 350 \text{時間}$

(2) 製造指図書 #102 を製品勘定に振り替える

- (1) の #102 合計 192,000（直接材料費 20,000＋直接労務費 120,000＋製造間接費 52,000）を仕掛品から製品に振り替える。